

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	<u>30</u>

事業所番号	3970600239
法人名	医療法人 五月会
事業所名	グループホーム むっく須崎
訪問調査日	平成20年7月9日
評価確定日	平成20年9月22日
評価機関名	社会福祉法人 高知県社会福祉協議会

○項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。
 [取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	3970600239		
法人名	医療法人 五月会		
事業所名	グループホーム むっく須崎		
所在地 (電話番号)	須崎市妙見町11番6号		(電話)0889-43-0510

評価機関名	社会福祉法人 高知県社会福祉協議会		
所在地	高知市朝倉戊375-1高知県立ふくし交流プラザ内		
訪問調査日	平成20年7月9日	評価確定日	平成20年9月22日

【情報提供票より】(平成20年6月1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成18年3月31日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18人
職員数	19人	常勤15(内兼務2)人、非常勤4人、常勤換算	17.8人

(2)建物概要

建物形態	併設 単独	新築 / 改築
建物構造	RC 造り	
	2階建ての	1階 ~ 2階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	25,000、30,000 円	その他の経費(月額)	15,000 円
敷金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 60円 / 回 円
	または1日当たり 1,000 円(おやつ除く)		

(4)利用者の概要(6月1日現在)

利用者人数	18名	男性	3名	女性	15名
要介護1	8名	要介護2	3名		
要介護3	3名	要介護4	4名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 86歳	最低	78歳	最高	98歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	須崎くろしお病院、一陽病院、吉野歯科
---------	--------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

丘陵地の閑静な住宅街にあり、利用者の散歩コースにある近くの公園からは須崎湾が一望できる。施設の裏手にある畑まではスロープや手すりが設置され、歩行困難な利用者でも車椅子で行けるようになっている。利用者が草引きや収穫、栽培方法の指導など、何らかの形で畑仕事に参加しているのか、畑は良く手入れされている。事業所は地域行事への参加や交流を積極的に行っており、また、震災等の災害時には避難場所として指定され地域にも認知されていることから、地域との信頼関係が築かれている。これからも益々地域に根差したグループホームとなることが期待される。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>「地域との支えあい」については、町内会へ加入し情報交換や交流に努めている。「同業者との交流」についても、高知県グループホーム連絡協議会に加入し、各種研修会に意欲的に参加するなど、前回評価での主な改善課題に対して具体的な改善に取り組んでいる。</p>
	②	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価は全職員で取り組んでおり、サービスの質の向上にむけた取り組みに努力している。</p>
重点項目	③	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議では事業所から近況報告や評価結果報告を行い、参加者からも意見が出され双方向的な会議となっている。会議では地域の行事の情報交換も盛んで、地区のお祭りや盆踊りには利用者と共に参加し、花見や忘年会にも職員が参加して地域住民との交流を深めている。また、認知症高齢者家族支援員養成実習を受け入れるなど、運営推進会議を生かした取り組みを行っている。</p>
重点項目	④	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族会は6月と11月の年2回行っている。その際、家族同士の懇談の機会を持つようにしているが、特に意見等は出ていない。玄関脇に苦情箱を設置し、介護相談員を年3回受け入れるなど、苦情や意見を気軽に表せる機会づくりも行っている。</p>
重点項目	⑤	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>運営推進会議を通じて区長や民生委員と連携をとり、お祭りや盆踊りなど地域の行事に利用者と共に参加している。また、地域の保育園とは七夕祭りの相互交流や運動会の見学を行い、また、近隣の方が日常的に季節の花、果物、野菜、野菜苗等を届けてくれ、地域の高齢者の方々との交流などもある。町内会にも加入し、地域の交流会館の鍵も預かるなど、益々地域との連携や信頼が築かれている。</p>

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

外部	自己	項目	取り組みの事実 (<input checked="" type="checkbox"/> 実施している内容・ <input type="checkbox"/> 実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	<input checked="" type="checkbox"/> 事業所独自の理念がある。 <input checked="" type="checkbox"/> これまでの理念に加え、地域密着型サービスとしての役割を目指した内容である。 地域に密着した生活を送ることを目指した内容となっている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	<input checked="" type="checkbox"/> 理念について職員間で話し合いの機会をもち、意識づけがされている。 スタッフ会、申し送り時、カンファレンスの機会等に話し、意識付けをしている。 <input checked="" type="checkbox"/> 日々のサービスの提供場面(言葉かけ、態度、記録等)において、理念が反映されている。 言葉かけや挨拶のとき等、理念の実践に努力している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	<input checked="" type="checkbox"/> 地域住民の一員として、町会、自治会等に参加している。 <input checked="" type="checkbox"/> リサイクル活動や行事など地域活動の情報を集め、それらに参加するなど、接点を持つ努力をしている。 運営推進会議の場や区長から地域の行事などの情報を取得し、お祭りや盆踊り、花見や忘年会などに参加して交流している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	<input checked="" type="checkbox"/> サービス評価を実施するにあたり、評価の意義とねらいについて運営者、管理者、職員で話し合い、全員で自己評価に取り組んでいる。 自己評価は全職員で話し合い、取り組んでいる。 <input checked="" type="checkbox"/> 評価で見出された課題について改善計画を立て、その実施に取り組んでいる。 地域との交流を深めるために、近くの保育園と七夕飾りの交換を行ったり、地域のお年寄りが昔ながらの手作りの七夕飾りを持参してくれたりするなど、前回評価での主な改善課題に対して改善計画を立て、具体的な改善に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (<input checked="" type="checkbox"/> 実施している内容・ <input type="checkbox"/> 実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p><input checked="" type="checkbox"/>会議では、事業所からの報告とともに参加メンバーから質問、意見、要望を受け、双方向的な会議となるよう配慮している。</p> <p>運営推進会議では事業所からの報告だけでなく、参加メンバーからも意見が出され、双方向的な会議となっている。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>評価で明らかになった課題について会議で報告し、改善に向けて取り組んでいる。</p> <p>運営推進会議で評価結果を報告し、改善に取り組んでいる。</p>		
6	9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p><input checked="" type="checkbox"/>市町村職員の研修場所として事業所を活用してもらったり、また市町村担当窓口に対して、事業所の実情やケアサービスの取り組みを折に触れて伝えるなど交流を図っている。</p> <p>地域包括支援センターや福祉事務所の介護保険係へ相談し、助言や指導を受け、市の「認知症高齢者家族やすらぎ支援員」養成実習を受け入れるなど、交流を図っている。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p><input checked="" type="checkbox"/>家族等の来訪時には声をかけ、利用者の状況や家族のことについて話し合っている。</p> <p>家族来訪時には利用者の近況報告をし、話し合いの機会を作っている。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>利用者の事業所での暮らしぶりやエピソードなど、手紙や写真等で伝えている。</p> <p>事業所のホーム便りを毎月発行し、利用者の写真を同封して家族に届けている。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>心身の状況について、何らかの変化や問題が起きた時に必ず報告されている。</p> <p>体調の変化や受診等、変わったことがあればその都度報告している。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>金銭について使途の確認や金銭出納帳等を明示し、その都度あるいは定期的に報告している。</p> <p>毎月、残高や使途報告を行い、家族の確認も取っている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (<input checked="" type="checkbox"/> 実施している内容・ <input type="checkbox"/> 実施していない内容)	(○ 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	<input checked="" type="checkbox"/> 家族会や家族同士の集まりの場で意見を出せるような仕組みを作っている。 家族会は6月と11月の年2回行っており、その際に家族同士のみでの懇談の機会を持つようにしている。また、玄関脇に苦情箱を設置し、年3回苦情相談員の受け入れを行うなど、苦情や意見を出せる仕組みを作っている。 <input checked="" type="checkbox"/> 苦情への対応で終わりではなく、その苦情の発生要因を探り、課題を検討し、質の向上をめざす取り組みをしている。 意見や苦情が出た場合は、スタッフ会等で検討し、原因究明、対応等を行い、直接家族に報告するだけでなく、ホーム便りにも載せるようにしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	<input checked="" type="checkbox"/> 利用者にとって馴染みの職員が継続的に支える体制となっている。 <input checked="" type="checkbox"/> 職員が代わるときは、引き継ぎの期間を十分に取り、スムーズに移行できるように配慮している。 職員が代わる時は1カ月の引継期間をとり、利用者の混乱を招かないように配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<input type="checkbox"/> 日常的に学ぶことを推進し、パート職員にもチームの一員として、研修・会議等参加の機会がある。 職場内・外の研修を全職員に周知しているが、公休や年休での参加がほとんどである。 <input checked="" type="checkbox"/> 全職員が共有できるよう、研修内容を報告する機会を作っている。 研修報告は毎月のスタッフ会で行い、資料等は全職員が閲覧できるようにしている。	○	職員が公休や年休を取って研修に参加していることは、厳密には事業所として職員に参加の機会を与えているとは言えず、業務の一環として研修に参加出来る体制づくりを望む。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	<input checked="" type="checkbox"/> 県内、全国組織の同業者ネットワークに加入し、サービスや職員の質向上につなげている。 高知県グループホーム連絡協議会に加入し、研修会等に参加している。 <input checked="" type="checkbox"/> 管理者・職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、職員のサービスや質向上に努めている。 市内の同業者と交流する機会があり、勉強会、相互訪問、意見交換などを行い、サービスの質の向上に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (<input checked="" type="checkbox"/> 実施している内容・ <input type="checkbox"/> 実施していない内容)	(○ 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<input type="checkbox"/> 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	<input checked="" type="checkbox"/> 入居希望者の入居に際し、その者の心身の状況、生活歴、病歴等の把握に努めている。 入居の際には必ず自宅や病院等へ訪問し、家族やケアマネ等関係者から情報を得て、本人や家族の意向も確認している。 <input checked="" type="checkbox"/> 本人や家族に事業所の見学や体験をしてもらっている。 家族には必ず見学してもらい話をしている。 <input type="checkbox"/> 入居希望者には、管理者と職員が面接を行っている。 管理者のみで面接している。	○	入居後の生活を直接支援する職員が事前に利用者と面接することは、利用者が安心してグループホームで生活を送るために必要なことである。今後は管理者と職員で面接を行い、多面的・多角的に情報収集するとともに、職員とも事前に顔馴染みの関係作りを行うことを期待する。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<input type="checkbox"/> 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	<input checked="" type="checkbox"/> 日々の生活場面の中で、利用者を支援されるのみの立場にはおいていない。 畑作りや調理の場面などで、利用者のできることや得意なことをしてもらうようにしている。 <input checked="" type="checkbox"/> 支援する側、される側という意識は持たず、お互いが協働しながら和やかな生活ができるような場面作りがある。 畑での野菜作りや草引き、漬物作りなど、一緒にできることは極力協働しながら和やかな生活ができるようにしている。 <input checked="" type="checkbox"/> 利用者から生活の技や生活文化の大事さを教えてもらう場面がある。 七夕や正月などの季節の飾り物、草履作り、服のリサイクル、野菜の保存方法等、日々の生活の中で文化の大切さや技術を教えてもらう場面がある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<input type="checkbox"/> 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	<input checked="" type="checkbox"/> 一人ひとりの思い・暮らし方の希望・意向の把握に努めている。 日々の関わりの中で、言葉、表情、態度等から希望や意向の把握に努めている。 <input checked="" type="checkbox"/> 意思疎通が困難な方には、ご家族や関係者から情報を得るようにしている。 家族や知人、入所前の病院スタッフ、関係者、ケアマネージャー等から情報を得るようにしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (<input checked="" type="checkbox"/> 実施している内容・ <input type="checkbox"/> 実施していない内容)	(○ 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	<input checked="" type="checkbox"/> 本人やご家族等からの気づき、意見、要望等を反映した介護計画が作成されている。 <input checked="" type="checkbox"/> アセスメントを含め職員全員で意見交換やモニタリング、カンファレンスを行っている。 アセスメントとカンファレンスは状態に変化があれば随時、モニタリングは毎月定期的に、職員全員で行っている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	<input checked="" type="checkbox"/> 介護計画は、設定された期間ごとに見直しされている。 概ね3カ月毎に見直している。 <input checked="" type="checkbox"/> 本人、家族の要望や状態に変化が生じた場合には、その都度見直しされている。 入退院や介護度の変更等、状態の変化に応じて見直している。 <input checked="" type="checkbox"/> ワンパターンの期間設定ではなく、本人の状態や計画内容に応じた個別の期間設定をしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	<input checked="" type="checkbox"/> 医療処置を受けながら生活が継続できるように努めている。 協力病院との連絡を密にし、事業所で生活が継続できる体制になっている。 <input type="checkbox"/> 重度化した場合や終末期も事業所でケアを提供している。 今までに事例はないが、家族からの希望があれば可能な限りのケアを提供するようにはしている。 <input checked="" type="checkbox"/> 特別な外出、通院や送迎、外泊などの支援を行っている。 帰宅願望の強い利用者の外出、送迎、通院支援など、臨機応変に対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (<input checked="" type="checkbox"/> 実施している内容・ <input type="checkbox"/> 実施していない内容)	(○ 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	<input type="checkbox"/> かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	<input checked="" type="checkbox"/> いままでのかかりつけ医や本人・家族等が希望する医療機関・医師に受診できる支援ができています。 <input checked="" type="checkbox"/> 受診や通院は、本人やご家族の希望に応じて対応している。 <input checked="" type="checkbox"/> 受診結果に関する情報の共有ができています。 家族及び同伴した職員から受診結果を聞き取り記録するなど、情報を共有している。		
19	47	<input type="checkbox"/> 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	<input type="checkbox"/> 終末期の対応方針を定め、家族・医師・看護師を交えて話し合いを行っている。 対応方針は定めているが、家族を交えた話し合いは行っていない。 <input type="checkbox"/> 本人や家族の意向を踏まえ、医師、職員が連携をとり、安心して納得した最期が迎えられるように取り組んでいる。 重度化や終末期にむけて医師と職員の間で話はしているが、現状の勤務体制等では看取りの対応は難しい。	○	重度化や終末期のケアは重要な課題であり、家族・医師・事業所との十分な話し合いが求められる。事業所として重度化や終末期にどのように取り組むのか、取り組めるのかを母体法人(病院運営)とも話し合い、事業所として利用者、家族に説明することが求められる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	<input type="checkbox"/> プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	<input checked="" type="checkbox"/> 人前であからさまに介護したり、誘導の声かけをして、本人を傷つけてしまわないように、目立たずさりげない言葉かけや対応に配慮している。 <input checked="" type="checkbox"/> 他の家族や外来者に対して、職員が利用者のプライバシーに関する話をしないことを徹底している。 日々の業務の中やスタッフ会で、プライバシーに関する話をしないように徹底している。 <input checked="" type="checkbox"/> 全ての職員が、個人情報保護法の理解に努め、徹底されている。 採用時やスタッフ会で、個人情報保護法の理解に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (<input checked="" type="checkbox"/> 実施している内容・ <input type="checkbox"/> 実施していない内容)	(○ 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	<input checked="" type="checkbox"/> 一人ひとりの「その日」にしたいこと(買い物や散歩等)を把握し、それに応じて柔軟に支援している。 会話やその日の様子から、利用者がどのように過ごしたいかを把握し、柔軟に支援している。 <input checked="" type="checkbox"/> 事業所の業務スケジュールに利用者の生活を合わせていない。 一人ひとりのペースを大切に、利用者の生活を支援している。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	<input checked="" type="checkbox"/> 献立づくりから調理、片付けに至るまで、食事に関する一連の流れを職員が一方的に進めるのではなく、利用者の意志や気持ちを大切に進めている。 調理の下ごしらえから後片付けまで、利用者のレベルにあわせて出来ることを職員と一緒に進めている。 <input checked="" type="checkbox"/> 職員は食事の介助にとどまらず、利用者と職員が同じものを一緒に食べている。 介助や目配りをしながら、同じ物を利用者と一緒に食べている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	<input checked="" type="checkbox"/> 利用者のこれまでの生活習慣や希望にあわせて入浴できるよう、職員勤務体制等について工夫をしている。 夜間浴など希望に沿った入浴ができるように勤務体制を組んでいる。 <input checked="" type="checkbox"/> 入浴を拒む人に対しては、言葉かけや対応の工夫、チームプレー等によって一人ひとりにあわせて入浴支援を行っている。 利用者の一人ひとりの入浴支援方法を職員は共有し理解しており、声掛けやタイミング、誘導方法等に工夫している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	<input checked="" type="checkbox"/> 何がその人の役割、楽しみごとになり得るかを把握している。 調理の下ごしらえ、テーブル拭き、スーパーの袋たたみ、洗濯物たたみ、ゴミ箱折り、散歩、カラオケ等、一人ひとりの役割や楽しみごとを把握している。 <input checked="" type="checkbox"/> 食事作りや庭木の剪定など利用者の経験や知恵を発揮する場面を作っている。 野菜の世話、保存食や漬物づくり等、利用者の経験や知恵を発揮する場面を作っている。 <input checked="" type="checkbox"/> 一人ひとりの役割、楽しみごと等を作り出すため働きかけを行っている。 畑の世話、食事作りの手伝い、カラオケ、踊りなど一緒にすることにより、潜在能力を引き出し、一人ひとりの役割や楽しみごとを作り出す働きかけをしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (<input checked="" type="checkbox"/> 実施している内容・ <input type="checkbox"/> 実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25	61	事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	<input checked="" type="checkbox"/> 近くへの散歩だけではなく、その人の馴染みの店や場所へ出かけている。 馴染みの衣料品店や美容院等に出かけている。 <input checked="" type="checkbox"/> 歩行困難なケースでも、車や車いす等を利用し、戸外へ出ることを積極的に行っている。 歩行困難な利用者も近くの公園やドライブに出かけている。 <input checked="" type="checkbox"/> 日常的に散歩、買い物あるいはドライブ等に出かけている。 近くの公園の散歩には日常的に出掛け、天気の良い日には買い物やドライブにも出かけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	<input checked="" type="checkbox"/> 居室や日中玄関に鍵をかけていない。 <input checked="" type="checkbox"/> 利用者一人ひとりの外出の習慣や傾向を把握して、対応している。 利用者の外出傾向や習慣の把握はしており、その日の気分や様子により柔軟に対応している。 <input checked="" type="checkbox"/> 近所の人にも理解を求め、見守り、声かけや連絡をしてもらえる関係を築いている。 利用者は近所の人と顔見知りであり、声掛けや連絡をしてもらえる関係はできている。		
27	71	火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	<input type="checkbox"/> 事業所だけの訓練ではなく、地域住民の参加、協力を得ながら避難訓練等を定期的に実施している。 避難訓練は事業所のみで行っており、地域住民の参加はない。 <input checked="" type="checkbox"/> 避難路の確保(整理整頓)や消火器等の設備点検を定期的に行うとともに、非常用食料・備品を準備している。 消火器等の設備点検は法定点検を実施している。非常用食料・備品の準備もできている。	○	災害時には職員だけの救助や避難には限界があり地域住民の協力など不可欠であるので、避難訓練に地域住民の参加協力を得ることが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (<input checked="" type="checkbox"/> 実施している内容・ <input type="checkbox"/> 実施していない内容)	(○ 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	<input type="checkbox"/> 一人ひとりの一日の栄養摂取総量や水分量を把握している。 水分量の把握が出来ていない。 <input checked="" type="checkbox"/> 一人ひとりの嗜好を把握し、献立に採り入れながら、栄養バランスにも配慮している。 一人ひとりの嗜好や摂取量は把握しており、栄養バランスに配慮して献立に取り入れている。 <input checked="" type="checkbox"/> 定期的に、栄養士や保健師等に専門的な観点からチェックしてもらっている。 2カ月毎に同一法人の管理栄養士がチェックしている。	○	水分量の把握は利用者の健康管理には欠かせない情報であり、職員は利用者の状態把握のために日々の水分量を記録し、必要摂取量の把握に努めることが望まれる。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<input checked="" type="checkbox"/> 利用者にとって使いやすい配置や馴染みの物を採り入れた共用空間になっている。 共用空間は明るく、畳のコーナーもあり、ベランダ越しに畑も見える。居間におじやみや雑誌を置き、利用者がそれぞれの居場所でゆっくり過ごせるように工夫している。 <input checked="" type="checkbox"/> 天井や壁面に掛けられた折り紙等の飾り付けが、家庭的な雰囲気を壊していない。 壁面には優しい色調の絵画を飾り、居間の所々に置いてある利用者家族から頂いた活け花が、安らぎのある雰囲気を作っている。 <input checked="" type="checkbox"/> 季節感のある装飾等に工夫するなど、季節感や五感の刺激にも配慮している。 昔ながらの七夕飾り、季節の花、職員が収穫した季節の野菜などに季節感を感じることができる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<input checked="" type="checkbox"/> 使い慣れた馴染みの物を傍に置おくなど、本人や家族と相談しながら個別に工夫されている。 ベッドや寝具など本人の馴染みのものが持ち込まれている。 <input checked="" type="checkbox"/> 家族の協力が得られない等の場合でも、本人の意向を確認しながら、その人らしく居心地のよい居室づくりに取り組まれている。 本人の意向を確認し、家具の配置や飾り付け等に取り組んでいる。		